

西脇市学校部活動地域移行検討会議の記録

会議等の名称	第2回西脇市学校部活動地域展開検討会議
開催日時	令和7年7月31日（木） 午後7時00分～午後9時20分
開催場所	西脇市役所大会議室（3階）
出席委員の氏名又は人数	14人
欠席委員の氏名又は人数	0人
出席職員の職・氏名又は人数	8人
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	7人
議題又は協議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・部活アプリの活用について ・地域指導者の意向調査結果について ・地域クラブ活動の認定要件について ・意見交換
会議の記録（概要）	
発言者	【資料1】実証事業期間中における西脇市地域クラブ活動に係る方針
委員	「実証事業期間中における」だが、実証事業期間が終わっても、生涯スポーツや生涯芸術・文化を、この地域の中で育てていくという姿勢は、継続して残していただきたい。
委員長	方針の修正について、これでよいか。
	《了承》
委員	【資料2】実証事業の申込状況 本校には陸上競技部員が4人いる。顧問としては、その4人が申し込んだのか、申し込んでないのかが一番気になる。申し込み忘れなのか、休日は参加しないと思っているのか。顧問にもう少し情報提供してもらえばよかった。今後、他種目が展開された時に、顧問との情報共有がもっと綿密になればいいと思った。
委員長	学校の教員は、休日の地域クラブ活動中に、どのよ

	<p>うな活動をしているのか、誰が来ているのかというのを知っておきたい。しかし、子どもたちは行くも行かないも自由になっている。その辺りが非常に悩ましいところである。今までのように平日も休日も同じメンバーでしていることを大歓迎する子もいるし、平日だけで休日はゆっくりしたい子もいる。その辺のアプローチはデリケートである。</p>
委員	<p>少しでも教員の負担軽減を考えていただいているのは非常に嬉しい。</p>
	<p>既存の部活動について、そのまま地域に休日の受け皿ができれば一番いいと思う。それがかなわなかった時に、平日に学校にある種目を、休日に受け入れてもらえなくてもいいのではないかと思う。学校は学校でできることは精一杯、縮小しながらもするが、それとは別に、市として、社会体育として、「このような種目なら用意できる」と、新たに立ち上げる発想であってもいいと思う。</p>
委員長	<p>重要なところだと思う。部活動にない種目にも広げていくという方向であることも、了承願う。</p>
	<p>《了承》</p>
事務局	<p>【資料3】地域クラブアプリの活用</p>
	<p>先ほど御紹介した地域クラブアプリを使ってもいいと当検討会議で了承いただければ、今年度の実証事業で試用できるよう導入に向けて動いていきたい。</p>
委員	<p>今後立ち上がってくる地域クラブにも当該アプリを使ってもらい、指導者への報償の支払いなど、それを教育委員会で一元管理するのか。</p>
事務局	<p>加入者名簿を揃えることで、連絡先であったり、報償の支払いであったり、会費の納入など、管理できるとは思っている。</p>
事務局	<p>前回の会議で、急に連絡を取りたいときにどのように対応すればいいのかが課題として上がった。従来ならメールや電話でのやり取り等に限られていたが、限られた指導者のもとで、対応に苦慮される場面もあると考えられることから、便利なツールを紹介させていただいたものである。</p>

委員	<p>完全移行になってからも、市がある程度そのアプリを使っただけの管理を続けられるか。</p>
事務局	<p>実証事業期間が終わった後については、このアプリを引き続き使ってもいいし、別のアプリでもっと有利なものがあれば、そちらを利用していただくことも可能である。</p>
事務局	<p>使用を強制するようなものではないし、それぞれのクラブでいろいろなノウハウもお持ちだと思うので、そちらでよければその方法で構わない。実証事業期間中は、市で費用負担をしていきたい。</p>
委員長	<p>論点を整理すると、令和7年度の実証事業となる地域クラブについて、まずこのアプリを採用して、やってみたいということ。実証事業が終わった後の管理や全体としていかにガバナンスを効かせるのか。それは西脇市がどこかの窓口で責任を負うのか、あるいは地域クラブごとに実施するのか。</p> <p>地域クラブに登録をして活動することは、全体として集約して何らかの形での一元管理や責任を負うところがある。もちろん、個々の団体も、責任を負う。そのあたりは、これから議論していく必要がある。</p> <p>まず令和7年度の実証事業はこれを使って、皆さんが一番心配している連絡や出欠報告をしてはどうか。7年度の実証事業として、このアプリを採用していくという方向性でよいか。</p> <p>《了承》</p>
委員長	<p>アプリの説明時にあった指導者の研修について、オンデマンドで実施できるということである。良し悪しを含めて考えていくということである。最近では、集合研修がなかなか難しく、オンデマンド形式が増えてきている。</p>
委員	<p>【資料4】地域指導者の意向調査結果 【資料5】教職員の意向調査結果</p> <p>委員の中で中学生を受け入れられると回答いただいた方がいる。多くの団体が受け入れられないという回答に驚いているところだが、受け入れができると判断</p>

委員	<p>されたポイントはどのようなことか。</p> <p>できるというより、やりたいというのが1番の思いである。ミュージックベルやトーンチャイムという楽器が、各学校にあるという事実があり、文科省の推奨の楽器でもある。しかし、うまく活用できていない現実がある。もっとこの楽器の良さや可能性を子どもたちに知ってもらいたい。</p> <p>ただ、やりたいと言っても、どのような形で受け入れをしてもらえるのか、そして私たちも講師としてどのような条件を出していけばいいのか、まだ全く分からない状態で手を挙げている。条件によっては、できることとできないことはあると思う。</p>
委員	<p>西脇市の文化はかなり歴史がある。文化芸術の根を絶やしたくない。3歳ぐらいの保育園児から、いろんなことに関わっている。新しいことをやりながら、古い歴史も残していきたい。</p>
委員	<p>小学生にバレーボールを指導している。中学校で部活動がないという事態になると、我々がやってきたことを振り返ったときに、すごく寂しいものがある。小学生が18時から20時30分まで練習している。そこに中学生に手伝ってもらいながら、21時までの30分間、中学生にバレーをさせてやろうかなというのが我々の思いである。休日は1日練習や練習試合が入っているので、その合間を見て中学生も一緒に指導をしていこうと思っている。バレーボールを市内でしたいという子どもたちに、何とかバレーボールをさせてあげたい。</p>
委員	<p>硬式野球のクラブチームが西脇にある。そのチームは、部活動の野球を卒部した生徒を、高校へ行くまでの間、快く受け入れてくれている。</p>
委員長	<p>厳しい言い方をすれば、受入れ意向調査結果の数字が西脇市の地域の現状である。この大きな事態になっても、文化・スポーツの推進や振興に向けて動こうという人があまりいない。行政の説明がまだ伝わっていない部分もあるので、できないと言っているのかもしれないが、一方で残念なことではある。依然として、学校がやるものだ、という意識が変わらないのだろうと思う。少しでも、一部でもできるとなるように、行政としても、努力してアプローチしていただきたい</p>

	<p>し、市民に啓発もしていかないと厳しい状況も出てくる。それがその市の地域力であり、文化・スポーツ力である。だからこそ、この問題はすごく重要で、社会教育の分野でも考えていく必要がある。</p> <p>おそらくみんな他人事である。外野としての意見を言っている人が多数である。しかし、この厳しい状況について、良い意味で危機感を煽ることも必要である。</p>
事務局	<p>【資料6】地域クラブ活動の認定要件</p> <p>文部科学省が、地域クラブの認定要件を出せていない。それを待っているのは、致命的な手遅れになりかねないということから、先行している自治体の例を参考にしながら要綱を作った。</p>
委員	<p>とてもハードルが高いように思う。これだけのことをしないと、講師として認めていただけないのか。地域で手を挙げようかと思っている年齢的に余裕のある60歳以上の方が、要件を全部クリアして認定され、3年ごとに更新するというのは、ハードルを高くしているとしか思えない。</p>
委員長	<p>これはあくまでも叩き台である。今のような意見もどんどんいただいた方がいい。市によっては2段階で、「一緒にやろうよ」ぐらいのレベルから、「資格をしっかりと持って」と分けているところもある。</p>
委員	<p>調査結果をみて、西脇市は優秀な人がたくさんいる中で、できないという回答がこんなに多く出たことに対し、すごく危機感を持っている。剣道は特別なスポーツだと思っているので、競技者が少ない。その少ない人たちを地域展開の事業の中で活躍させていこうと思えば、実は大変なことであり、すごく重責を感じている。そこを、市はどのように私たちにバックアップしてくれるのだろうかという不安が大きい。</p> <p>できる人を求めるのではなく、市が「あなたならできる」「あなた、やってください」と、人材を探し、こちらがお願いしない限りは、この事業は成功するとは思っていない。</p>
委員	<p>陸上競技については、資格というよりは、ABC級の審判免許があるが、これらも対象として考えていいのか。審判をするのに、公認の大会ではその審判免許</p>

事務局	<p>がないとできない。</p> <p>審判免許までは想定していなかったのので、今後研究していく。</p>
委員	<p>「あなたの力を使わせてください」というスタンスは、改めて大事だと思った。同時に、ハードルは高いのかどうか、あんまりピンと正直来ていない。真剣に子どもたちの成長に向き合い、ある程度リスクを回避する上では、これぐらいしっかりやらないといけないのではないか。保護者の心配も発生してくる。</p>
委員	<p>この要綱については、一般論として、ハードルが低い競技もあると思うが、一方で、芸術系については、教員免許が必要であるとか、どこまでの指導が要件に認められるかが非常に難しいと思った。救いとして、その他に「教育委員会が特に認める資格」というのが入っているが、資格というよりも認める見識に対して教育委員会が責任を持って認定するのであればいいと思う。ある程度認定を緩やかにすることもないと、競技によって誰も来ないことになるのではないか。</p>
委員	<p>教員の立場からすれば、指導者はどんな人かということ、大変気にかかる。いろいろな人がいるので、やはり一定のハードルを設けて、それでもなお情熱を持ってやりたいという人がいれば、一番いいと思う。</p>
委員	<p>指導者の専門性のところで、中学校の教員でも専門的な部活動を指導している人ばかりではない。今まで経験もなくて、平日の部活動を指導している教員は、本当にきついと思う。そのような中で、休日にもし指導する部活動が選べるなら、自分の専門性を生かして指導したいと思う人がいると思う。部活動の指導経験が1年以上と言われると、教員であっても、指導の経験がなければ指導できないということがないように、少しハードルを変えていただきたい。関わりたいと思っている小学校の教員は当然部活動の指導はしていないので、小学校の教員が当てはまらないようになってしまうのは違うと思う。</p>
事務局	<p>専門要件で挙げているのは、いずれか1つを満たすということである。文化系については、なかなかフィットしていないというのを、御意見を聞いていて思った。4番で競技経験という言葉の「競技」は取りたい</p>

<p>委員長</p>	<p>と思うが、当該種目、例えば美術や音楽の経験が3年以上であるとか、このあたりでハードルは下がっている。</p> <p>なぜ要件を設けるかであるが、保護者が一番不安に思うのが、どこのどんな人に教わるか分からない、自分の子がどのような目に合うか分からないというような、すごく不安点がある。この競技にしっかり経験があることや、指導を1年以上しているという安心感というのは非常に大きいと判断したためである。資料を持ち帰りいただいて、忌憚のない意見をいただきたい。</p> <p>要綱の周知をいつぐらいにするのか。次回が10月なので、その段階で完成とする形で、それを受けてすぐに関係者に周知して説明会をするのか、もう少し前にすべきなのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>要綱をもって具体的にどのように公募していくかであるが、3回目の検討会議後ということも考えられる。しかし、今回の受け皿の聞き取り調査でも、なかなか受け手が少ない中で、受け皿を探すのはできるだけ早いタイミングでしたいとも考えている。</p>
<p>委員長</p>	<p>確定しないといろいろなアプローチはできないことも分かるが、枠組みは委員のほか市民も理解されているとすれば、候補となる人に丁寧に話をしていくなど、会議までにやれることはある。公の文書は確定をしないと出せないが、それ以前に、次の会議までに動いていただいても構わないか。</p>
<p>委員長</p>	<p>《了承》</p> <p>先ほどから話題になっている、「受け入れできない」ということも、誤解や十分伝わっていないことがある。今日のやりとりを見て、地域の活動というのが、指導者がタクトを振って、一人で全部やるという形態をイメージしていたとしたら、あくまでそれは1つの形態であって、部活動にもみられるように、それがしんどい訳なので。一緒にやれる人を探して始めたいという形態の地域クラブでもあってもいい。</p> <p>目指す姿も含めて、どんな活動を、多様なイメージを、みんなに分かるようにすることに注力いただけた</p>

	らありがたい。次回までをお願いしたい。
委員長	<p>【資料 7】愛称募集</p> <p>周知と啓発にもつなげていきたいというところである。</p>
委員	<p>愛称を付けることはすごくいいと思う。しかし、中身や方向性が決まっていなくて大丈夫か。愛称を先に決めて、マスコットキャラクターのように興味や関心を引いて、指導者を集めようという目的なのか。</p>
委員	<p>愛称は他市町も決めている。新聞にもどんどん出ている。逆に言えば、西脇の愛称はどうなっているのか、まだ決まっていないのか、という意見も出てくる。愛称はあってもいいのではないか。</p>
委員	<p>愛称は、地域展開されてからもずっとあるのか。</p>
委員長	<p>もちろんそうである。先に出すことにより中身はわからないが、大きな夢みたいなものを出して、より注目してもらうような手法なのか、細かいところが決まって、みんなが認識してから愛称募集をするのも、どちらもありだと思う。2人の委員が言われたことを踏まえて、判断いただけたらと思う。</p> <p>《了承》</p>
委員長	<p>【資料 8】緊急連絡体制</p> <p>今回はイメージとのことだが、実証事業するときには、きっちり押さえておいていただきたい。</p>
委員長	<p>事務局が具体的な案として数々の提案をしている。そのため、たくさんの意見が出て、協議を重ねることができていると前向きに捉えていただき、次回以降もお付き合いいただけたらと思う。</p>
事務局	<p>第 3 回目の検討会議を10月頃に予定したい。</p>
問合せ先	生涯学習課（内線 4050）